

新編水滸畫傳

五編

七



門 遊 875  
號 卷 47

神書佛書醫書國史  
繪本年中新古賣賣  
手遊いふく法方の間  
河内文了れりし上

後河内三休指申入  
河内屋孫云術

新編水滸畫傳卷之四拾七

東武 高井蘭山翁 譯編

明治三十二年  
七月十日 講求

○高太尉大に三路の云と興を  
斯て呼延灼兵小先鋒の二將各州に破て軍を遣へし月の中に  
於て獨り一六呼延灼より出陣の云と太尉を休へ候ひたるに高俅又  
二人の軍友に酒肴と持しり。呼延灼が陣中に巻く。用を調の上ハ  
公孫才より出陣を乞ふ。且は兼洒疎看を以て。三軍を賞はる微意と  
表はしり送りければ呼延灼使者に對面して厚禮と謝礼し。子速進奔  
して梁山泊へ攻来る山陣ふをやけ事吹えし。晁蓋宋江は兵用  
を以て。法政依所皆聚義廳に集ふ。計と商議は。時小異用を  
出て云るハ我等呼延灼ハ河東の名將用玉の功長。呼延賛が嫡派の子

新編水滸畫傳卷之四十七

孫もて文武両全の大將とれば定て軍中も勇士多うぶれば等閑の  
款にめく末意を以てこれと尋るに先に力を以て款し。後小智を  
以て破る可うん。宋江を以て破る可うん。病尉遲孫立に  
第一陣と歩しめ。豹子頭林冲に第二陣と歩しめ。小李廣花榮に第  
三陣と歩しめ。一丈青扈三娘に第四陣と歩しめ。病尉遲孫立に  
第五陣と歩しめ。宋江自ら十人の隊を以て後陣よりをむ。別ち  
右軍の大將ハ朱仝雷横穆弘黃信呂方等。右軍の大將ハ楊雄石  
秀歐鵬馬麟郭盛等。水軍の大將ハ李俊張横張順阮小二阮小  
五阮小七等。李逵楊林等。歩軍を以て支隊に埋伏し既して  
秦明とやを以て引て山をり。要害の地を擇で陣勢を列ねり。以時  
冬の天氣よりといた。寒い小風利ど日暖めて春の天氣と等し

うりれば。三軍等に若むとあうり。翌日友軍の先鋒百務將軍韓滔  
人馬を率し已にあり。秦明と其間近く陣を對し。以夜を先軍を以  
休めて残は次の日友軍互に攻鼓と歩て。喊の響山谷と響せけり。  
宋江が陣中より霹靂火秦明を以て確て棍を擡へて。陣前を以て  
ふ。秦明の陣中よりは。百務將軍韓滔鎗を擡て跑出大に秦明を  
罵て云天を以てありぬるに。汝何ぞととりて。降参せざるや。吾我を  
以て抗拒を勿れ。山陣と踏冊して。汝が首を街小示流ん秦明を  
以て大いに怒り。棍を揮て韓滔を以て蒐り。韓滔鎗を卷てこれを  
迎へ戦已に二十余合あり。韓滔鎗を疲れて逃し。中軍の衆大  
に軍呼延灼を以て以て鎗を以て飛せ持て搦して。陣前小砲  
出るに時又第二陣の大豹子頭林冲これを見て。飛ぎく小砲を

うち呼延灼と迎へておれ、おれは支那のころ、方夫不尚の勇士なれば、  
 互に威を振ひ勇を勵んで、鬪已に二十餘合、小われを、赤く猪頭と分  
 だ、第三陣の大將少李廣花榮、大少呼て云、林將軍暫く歇、ま  
 我、これと活捉んとて、うまをめて馳せられた。林冲、呼延灼と棄て引  
 返く、呼延灼、林冲が強勇なるを見て、敢て追はれ、日くく、うまを勒て  
 本陣に引回し、ぬは、時天目が軍彭玘、うまを陳希に誘ひ出して、花榮を  
 罵て云、汝、反賊何ぞ、いかに、我と二十合、我を勝負と改せよ。花榮  
 大に怒て、彭玘、小柳鬼を、彭玘、これと迎へて、うまを交へ、我、已に二十餘合、小  
 ちて、彭玘、おれ、おれ、呼延灼、又、うまを馳て、馳て、馳て、馳て、彭玘に替つて、  
 花榮と、うまを交へ、我、已に二十餘合、小、及、うまを、花、陣の、女、大將、一、丈、  
 喜、扈、三、娘、已に、ちて、大に、呼り、云、うま、花、軍、先、歇、と、我、一、張、と、脚、ん

と、うまを、り、一、丈、花、榮、を、是、に、譲、て、引、回、し、ぬ、彭、玘、又、跳、来、て、一、丈、青、と  
 我、ひ、り、ぬ、第、二、陣、の、大、將、病、尉、孫、立、已に、ちて、赤、人、が、我、ひ、と、見、る、に、ま、  
 二十餘合に及、い、ま、と、雄、雄、と、分、と、うま、一、丈、喜、忽、ち、うま、を、回、して、近、け  
 れ、バ、彭、玘、煮、に、追、う、り、漸、く、近、く、うり、し、取、に、一、丈、喜、暗、に、鉤、索、を、投、て、彭、玘  
 と、うま、より、下、に、鉤、落、し、ら、れ、ぬ、孫、立、煮、に、ち、と、馳、て、これ、を、生、捉、り、呼、延、灼  
 これ、を、見、て、大、小、怒、り、鉄、棒、を、揮、て、一、丈、喜、に、お、て、鬼、一、丈、喜、を、迎、へ、十、合  
 許、戦、し、ぬ、呼、延、灼、一、丈、と、大、に、焦、燥、と、お、し、ぬ、一、丈、喜、友、刀、を、交、へ、て  
 鉄、棒、を、滿、住、ら、れ、ぬ、孫、立、煮、下、て、大、光、を、擡、と、敢、し、り、呼、延、灼、を、見、て  
 益、怒、り、又、鉄、棒、を、奉、て、お、んと、し、ぬ、一、丈、喜、後、に、款、す、り、能、は、る、と  
 回、して、本、陣、に、逃、来、る、呼、延、灼、後、に、馳、て、趕、蒐、し、ぬ、孫、立、捨、を、擡、て、お、  
 還、へ、支、將、勇、を、奮、て、攻、戦、し、ぬ、時、天、目、も、十、人、の、大、將、を、引、て、陳、希、に、お、り

いちぢやうせりまきとらふ  
一丈青双刀と弄る

おれんこえん  
大少呼延灼と戦図



弘政歿して佐に友將の戦ひと遠見に。扱け友人の大將ハ各有名の勇士  
あれ。互に秘術と尋し。精神と持ひ。戦已に三十餘合ふれど。勝  
負さうに分らぬ。宋江を見て只歎感歎止まらぬ。時ハ友軍の陣中  
より韓滔大軍を引て。一夜に咄と考ふる。宋江を見て右に知り  
るに。十人の大將并に林冲ハ陣の大將。友將も分て緊しく夾で  
攻し。嗚呼延灼も日づく。入るを分て迎へ戦ふ。宋江が去を勢ひに  
して敵し。うた。未だ金さ勝と泣き。いんぞなれど。友軍をわけてるに  
甲せ。急せ。能業と防で。をむ。急。宋江が人るハ。勅も。それ。砲を。打ら。れて。清く  
も。多。う。り。り。宋江。られ。て。て。且。金。と。喝。し。三。軍。を。收。め。られ。ハ。呼。延。灼。も  
又。去。り。二十。餘。里。退。け。陣。と。置。か。し。列。ね。る。宋江。ハ。去。と。引。て。而。山。の  
下に。屯。し。ぬ。ハ。時。軍。率。ハ。彭。玘。と。綁。て。引。出。し。られ。ハ。宋江。自。ら。彭。玘。が。絆

の索と解て帳中に入賓を席と分て。坐已に空りり。宋江は身と  
翻して。彭玘と物し。られ。彭玘急に物と還して。宋江ハ。擣と。り。り。  
放軍され。理。ま。さ。死。ふ。つ。と。如。し。將。軍。却。て。大。礼。と。施。し。る。ハ。  
い。ん。宋。江。が。急。に。人。の。身。と。容。ん。ぶ。る。亦。さ。な。れ。皆。く。梁。山。泊。小。籠  
城。して。難。と。避。禍。と。脱。る。今。已。に。天。を。と。ま。る。上。ハ。不。く。頭。と。延。て。綁  
に。就。べ。と。な。れ。と。一。命。と。害。せ。し。れ。ん。と。と。及。れ。自。ら。罪。と。負。て。悔。を  
交へ。敢て。將。軍。の。威。風。と。犯。し。ぬ。刑。く。罪。と。免。し。又。彭。玘。が。急。に。引  
り。宋。將。軍。の。仁。德。と。嘆。及。る。に。果。して。そ。の。虚。し。く。は。あ。ら。ず。宋。江  
一。命。と。ゆ。け。る。ハ。放。系。の。刻。宣。し。く。帝。ハ。奏。す。り。て。將。軍。の。忠。義。と。許。す  
べし。宋江が急に。佐の兄弟を救てんと。一つあり。朝廷の事故を待  
たる。急に。恩。赦。と。賜。ふ。と。忘。れ。て。死。に。報。ひ。死。せ。ば。悔。て。た。と。言。す。べし。

秋毫も待及の企めしむる。將軍の如く吹嘘と密交し、即日彭玘と  
山疎に送て、鬼天王小遇しめり。扱も呼延灼の去と收り、疎を九刻  
韓滔と商議して云る。いさる計とひく梁山泊と攻めんと。韓滔  
が云、明の忠告と一つ小合せて、緊し攻め、必定勝と決し。呼延  
灼が云、是下の言我、小合し。我軍し、計をなすべし。と大に  
堂しり。

○呼延灼連環と擺布

呼延灼の先鋒の去、小遇の軍し、人ると擺布とて、敵と破る計とる。い  
べし。と。後軍に号令と傳へ、三子止の軍と一擺し、但し三子匹  
ど小一連し。後環とつり。若遠と敵に遇し、若と放てられ、攻  
り近と敵に遇し、徐と入てられと突べし。計と定先、一人一已

の勝と利。一連一環の勝と利。三子の連環と軍と分く、一百隊に  
又又子の歩軍と後に備へて、救とけ。呼延灼と韓滔と、後陣と押へて。  
去と三面に分く。使機小依て、軍し、我志し、敵とめ利とせど。  
備しり。翌日宋江と又又隊の軍馬と若くをましめ。後軍の十將の  
支路に備へ。又依と分て、若く小役。いさる又又隊の若軍の如く、  
陳瓌と列ねり。中ふ、秦明あり。若く、林冲一丈青あり。若く、花榮  
孫立あり。宋江も又十人の大將と列て、已にあり。若く、人に若く備へて。  
敵陣とまらぬ。納莫一子許の歩軍ありて、只顧敵と振喊と奮するのふ  
しと出陣し、一人もめり。宋江と見えて、心中に疑ひ、暗に馬  
令と傳て、去と先退んとせし。如に敵疎の内に、炮の響大に響き、彼一  
子の歩軍忽ち支路に分れて、三隊の連環と軍出する。若く、射し

と搦へり。敵は小射あり。中軍は長槍の軍士と役あり。宋は  
尾を大軍に下知して。箭を射しめり。三子  
跡の連環軍三十騎。一連より。四方より夾んで攻め。宋  
江が軍隊の前軍。大いに死んで奔る。中軍の人をも又尾を搦高  
松に倒し。逃る。宋は十人の大将を大に討て  
慌て北を走り。処に。一隊の連環軍。や近くと赶上して。己に危  
く。時李逵楊林。左右より伏せ。出でて。敵の軍を搦高。遂に  
宋江を救ひり。宋江は遠く水辺にあり。李俊張横張順。阮小二  
阮小五。阮小七。六人水軍の大將。忙しく。宋江を搦へ。宋江は船に  
乗し。船大なる。船小なる。漕出に。彼連環軍。水  
邊に趕ひ。敵に射られ。船の上に傷牌あり。傷者も

あり。法の玄船。己に鴨背灘に。岸に上り。水陣の内。小を  
屯して。付れり。共。算方に。守に。死し。船れ。幸ひに。諸  
既。飲の面。死。宋江は。死びぬ。船。石秀。時。過  
孫新。顧大嫂。慌しく。逃。宋江は。若る。敵の。歩軍。大勢。攻。高  
て。船。歩。毀。て。宋。も。己に。活。投。れ。ん。と。幸。倖。ひに。救。船。來。て。救  
ひ。田。急。若。命。を。脱。れ。し。宋。江。一。く。これ。と。搦。高。して。諸。大。將。の  
内。箭。矢。を。受。る。人。を。算。方。に。乃。ち。林。冲。雷。撲。李。逵。石。秀。孫。新。黃  
佐。六。人。あり。士卒の内。矢に。中。り。ち。ち。の。教。を。知。る。晁。蓋。は  
よ。く。受。て。大。小。孩。を。兵。用。公。孫。務。ら。と。共。に。山。を。下。り。て。水。陣。に。あり  
制。軍。の。次。第。を。守。り。宋。江。は。憂。愁。の。顔。及。不。快。あり。兵。用  
係。て。云。長。兄。何。ぞ。憂。ひ。や。務。負。は。玄。家。の。名。譽。之。重。く。心。を。慰。め



夏別に良計を以て連環を破る。晁蓋は時号令と水軍に傳へて  
 率く水辺を以て、劉宋公明と山陣小旗を以て、營々休息をせしめんとせ  
 う。宋江散て山陣に上り、呂蒙傷の大羽の先山陣に送て養生  
 かさめり、呼延灼ハ大旗を令ふして、本陣にあり、これを三限の  
 張將を以て来て、各切を執り、活捕の軍士八百餘人奪り、残るは  
 百餘を以て、介の首の殺せ、知れと記せり。呼延灼大旗を以て、即日  
 飛脚を以て、京小きて、捷軍を報じ、まぐ三軍を賞し、り。相言太尉ハ呼  
 延灼が表を以て、心中を以て、喜び、聖子朝帝ハ表を奏し、り。帝  
 所感斜を以て、所賜一百餘、袍十を、并賞錢十萬貫。これを  
 三軍に賞す、まぐ。太尉に勅命あり、り。右太尉ハ殿帥府を圍り、  
 勅使を以て、呼延灼が陣にあり、り。呼延灼ハ勅使劉忠と、破し、り。

韓滔、共に往り、り。二十里外、小旗を以て、迎へ、陣中に  
 あり。韓滔、恩を以て、謝し、賞を以て、勅使を以て、答へ、り。呼延灼又勅  
 使に對して、云、り。頃日の戦に、八百の旗を以て、捕し、り。も、賊を以て、宋  
 江と生擒て、後、共に京に引んと、欲し、り。尚、陣中に、餘を以て、勅使を以て、  
 云、彭玘先鋒は、何れ、賊に、捉え、り。や、呼延灼が、云、彼、頻りに、宋江に、  
 捉んと、欲して、源入り、加、却て、教に、捉れ、ぬ。今、群、賊、亦、阮、秉、を、滅し、  
 り。これ、は、必定、あり、我、ふ、と、あり、り。宋、再、び、云、と、つて、攻、り、陣、小、旗、を、以て、  
 生、捕、て、梁、山、泊、を、掃、り、清、む、べし。これ、を、只、眼、を、く、ハ、山、陣、の、口、方、を、  
 水、泊、り、て、進、り、ん、旗、を、遙、に、賊、の、寨、柵、を、見、り、り。大、砲、を、以て、  
 これ、を、お、も、忽、ち、赤、旗、を、令、り、勝、を、以て、り。我、軍、を、以て、旗、を、以て、り。も  
 進、ん、り、る、れ、を、今、更、に、破、る、と、願、り、り。宋、再、び、云、り、り。砲、の、上、を

わう。別ち裏天雷凌振と云ふ。彼能大炮と放て。十に八里のるど飛  
し。砲子のるど天雷れ地陷山倒れ不裂。若は凌振と云て城  
と攻へ必む勝せ。九と旦夕小あうん。況や凌振は源く武藝に海に  
弓に熟練せり。若天使系小海りあひ。若志尉に比事と作へあひて。  
あく彼と戦。戦とゆけしめ。勅使これと飲掌。翌日遂に別れ  
不日に系小取て。若球小見え。喉延灼が凌振と索め。砲とホ一めん  
那ふと。若球に強り。なれば。若球別人と馳て凌振と拵く。比まの原燕  
凌の人こそ。宋胡小双る。砲の上子。之討に武藝も亦名譽の達人  
るれば。人とは称せ。びとのほ。凌振殿帥府小。若志尉に  
見えし。若志尉細と強りて。急小奮足す。さう。命に。凌振  
後で飲掌。やがて徳色の砲と車小載て。百餘人と飲。翌日東京

と亦も遂に喉延灼が陣ふ。し。喉延灼韓信これと迎へて討面以。  
凌振先水陣の遠近海救と。一併に向ひ。險阻の地と撰て。之根の砲  
と強く。と。強とめ。若志尉と強。第一風火炮第二金鞞砲  
第三子母砲とて。各利多き砲あり。已に用え調りし。若志尉と強。飲の  
水陣とあんと。若志尉。相宋に鴨嘴隘の陣中にて。軍師吳  
用と友軍と破ん計と強。これ未だ。強計とめ。若志尉。一人の  
探見來て。強。若志尉。新に凌振と云。砲の上。若志尉。云。根の  
砲と強。親方の陣柵と破んと。若志尉。是と防。若志尉。吳用が云  
これ未だ。怕。若志尉。我山陣の口方。若志尉。水泊港。若志尉。况や  
宛子城。水と強。若志尉。若志尉。遠。若志尉。飛。天火炮と放つ。若志尉。吳と  
純城。若志尉。且鴨嘴隘の陣と棄て。彼が砲と強。若志尉。若志尉。列に

汁を商議すべしと。吉日定江兵用鴨嘴澁の疎と棄て法ねとたふ  
山疎に上り。舩晁蓋を疎撫と。衆義殿に會聚して計を議し  
るに。忽ち山下小炮の響大に響て。一連に三回放ちぬ。二つの炮は水中に  
歩入。二つの炮は鴨嘴澁の疎と歩破ぬと。皆々。公定江大に響て。心中  
疎くこれと。晁蓋も同じく。皆々。公定江大に響て。呉学究が云ふ。誰か  
ても法振を誘引して。水辺に歩ん。計をひてこれと。生捕死後法を破る  
の良計と。議せし。晁蓋が云。李俊張横張順。阮小二。阮小五。阮小七。小舟  
と。漕しめて。かくのどろろ。行せむ可や。公定江大に響て。計最悪なりと。  
李俊六人に号令を傳へられぬ。六人の大計を法て。二子に分ち。李俊張  
横は先は又十人の水軍を引て。二艘の舩に乘。葦葦をさぬと。皆々。公定江大に響て。對岸  
と。皆々。公定江大に響て。張順と。三見舟の阮家。十舟艘の小舟と。漕て。救

急なるに。扱かの李俊張横は。已に對岸小舟に漕り。上り。法に敵の砲を  
役け。上り。船に馳て。二度に吐と。喊の響を。砲架も。皆々。公定江大に響て。諸冊し。乃れぬ。  
軍軍を慌れて。法振に。若小なる。法振大に響て。忙しく。檢檢を。する。小舟一  
子。舟人。と。引て。去に。逃る。李俊張横。と。引て。逃走。法振。已  
に。葦葦。疎き。水辺に。逃。水面。と。乃れぬ。十舟艘の小舟。一舟に。お連ね  
一艘の。船に。引。十舟人の。水軍。を。李俊張横。と。船の上。に。跳。棄て。れ。去  
船と。漕。冥に。一向。船に。引。て。去。乃れぬ。法振。を。下。知。して。水中。に。趕。入。逐  
に。多く。の。船。を。奪。ひ。取。て。復。軍。を。引。船。に。乘。李俊張横。が。船。を。引。て。逃  
る。對岸。の上。より。山。疎。の。大。將。朱。全。雷。横。を。引。喊。の。響。を。棄。し。金。鼓  
と。亦。鳴。法。振。は。三。軍。と。共に。船。小。乘。漸。く。船。に。引。り。乃れぬ。朱。全。雷。横  
對岸。の上。に。在。て。是。河。見。る。時。分。好。ど。と。お。公。の。旗。を。亦。鳴。し。乃れぬ。

水底より三百餘の水軍潜り出。彼友軍ホシ。船底の屑を抜り。小舟忽ち滾入て。強紅着く。水中に沈入る。凌振は先をみて。大小船を。漕面えん。と。船中水満くと。滾入て。同じく水底に沈り。小二れと。縁で。凌振と水中にて。捉へ。對岸の上に。拖り上り。小舟の上の。をやくも。毛を。解て。水中。生捕し。友を。二百有餘人。その。友軍。水に。塗れ死し。早ぬ。尚。敵の。友を。あて。這く。命を。脱れ。赤らに。陣に。逃ゆ。呼。延。灼に。新と。告られ。毛を。解て。大小。船。を。引。水。辺に。出。敵。船。に。對。岸に。引。文。に。蓋。を。す。見。蓋。宋。の。凌。振。と。法。提。と。呼。て。大。小。者。脱。し。法。既。然。と。言。ひ。二。の。雲。小。出。て。凌。振。と。迎。一。宋。の。自。の。凌。振。が。絆。と。解。て。法。人。と。責。て。云。我。先に。汝。に。命。し。る。恭。し。く。礼。を。凌。將。軍。小。そ。し。山。陳。に。存。を。せ。

よと云。に。何。れ。か。く。云。礼。と。言。は。凌。振。は。云。と。呼。て。公。中。に。感。じ。り。宋。に。又。自。の。凌。振。が。手。携。り。て。聚。義。廳。小。舟。に。引。彭。玘。も。同。じ。く。引。出。て。凌。振。に。對。面。に。凌。振。は。彭。玘。が。既。然。と。言。ひ。只。口。で。呼。て。何。は。彭。玘。再。三。凌。振。と。縁。て。云。晁。宋。と。既。然。と。言。ひ。天。小。習。し。乃。と。竹。ひ。豪。傑。と。招。き。聚。し。只。期。庭。の。所。敵。を。縁。り。我。等。已。に。高。陳。に。出。上。の。官。に。隨。順。し。て。共。に。大。義。と。結。び。申。宋。の。も。又。頻。りに。陳。と。相。つ。れ。凌。振。宋。山。陳。に。出。つ。て。先。見。亦。に。候。ん。易。な。れ。只。懼。し。く。八。眷。族。が。て。東。系。に。あり。我。山。陳。に。陸。取。り。一。旦。劫。に。滅。せ。ば。眷。族。悉。く。滅。賊。と。慕。ぶ。晁。蓋。が。云。將。軍。公。を。安。ん。ど。我。日。と。限。て。我。族。と。山。陣。に。邀。へ。ん。凌。振。が。云。先。見。果。し。て。け。の。ぞ。く。ん。身。を。縁。り。と。は。恩。と。言。ふ。と。感。謝。し。翌。日。晁。蓋。宋。の。兵。用。兵。に。法。既。然。皆。聚。義。廳。に。お。聚。り。連。環。



呉用が  
一計凌振を  
虜め

とる図



馬軍と被らん計と強しられ。更に良計較も有りし如に金鏃豹子  
湯隆をもちて云々。来不才よりと云。一計と執らん。被連環る軍を  
被ん。は一つの軍器あり。来が一人の表兄。扱めて以軍器と傳へ。彼を  
以て攻まるば。此地に被る。一。兵用同て云賢才。いづる軍器と用ん  
欲や。又表兄の姓名。いん。湯隆が云。来の先祖より。軍器と亦て嘗と  
以て。これに被連環馬軍と被る軍器と知り。別鉤鎌槍と用ひて被る  
と此の容易被る。来祖より傳へ。方盡る。由名鉤鎌槍と遣らん  
云々。難くされ。只これと傳へ。王能は。これとよく傳へ。来の表兄の云  
今。来系に在て。金鏃班の教師と云。這鉤鎌槍の法。被が。此の  
傳へ。先祖より傳へ。他人小教は。以て。不許多の教師と云。以て。鉤鎌  
槍の法と傳へ。方人。方て一人も。是と傳へ。別は。或は。上或は。歩り

其法あり。神妙奇特之。彼山陣。不は。必定欲の。馬軍と  
被る。一。と。来。も。被る。林冲を。出。云。金鏃班の教師と云。云々。  
徐寧が。云。云。云。湯隆が。云。乃。徐寧。林冲。大に。嘆。云。云。  
不。我。と。云。云。被。徐寧。が。鉤鎌槍の法。天下。を。双の。奇。流。之。我。東  
系。不。立。一。時。每。夜。彼。と。来。云。一。互。に。或。流。以。較。備。一。と。交。り。扱。て。睦。ト  
云。し。之。唯。云。云。云。今。い。云。云。被。山陣。に。邀。ん。や。湯隆。が。云。徐寧。が。家  
云。云。云。被。傳。へ。方。金。の。甲。あり。是。世。上。に。は。教。る。宝。物。なる。由。云。云。云。皮  
匣。の。内。小。收。り。居。間。の。内。の。梁。の。上。に。然。る。胡。夕。是。と。亦。云。云。云。已。が。姓  
令。と。稱。は。り。これ。と。云。云。盜。出。云。云。被。必。万。子。里。の。修。も。高。也。兵。用  
是。と。傳。へ。已。に。かく。の。云。云。何。の。難。と。云。云。云。云。幸。ひ。山陣。に。盜。の。云。云。云  
あり。今。次。は。賢。才。と。用。ん。と。鼓。上。蟬。時。遷。と。傳。へ。令。と。云。云。云。云。時。遷

飲菓しくと果しくけわめく。宋終に盜きて来るべし。湯隆が云汝り  
彼甲とてきてありる。我又彼と嫌しく山陣ふよりしめん。晁蓋宋江  
日しく官て云。汝何らの計とひく。彼と嫌しくあんなや湯隆追くも  
あてかくの。と低ましく晁宋とて。大に喜ばす。是時  
長用が云る。三人の取次と日しく。東京に馳一人ふ。大茶と買し。二人  
ふ。凌將軍の部族とて。びびり凌振見とて。悦びる。如に彭玘と  
を。宋江小告て云る。あ一人穎州に。宋江が部族とも。免  
や。源く山陣の大恩と感ず。宋江が云。賢才かと安ん。又我見  
と邀へ来し。悦び。あやせん。あ賢才。宋江と書管と修へ。あ人の  
と。悦て。悦て書管と修り。宋江先楊林小彭玘が書管と持し。先  
穎州小告し。薛永と茶賣に打扮。東京の凌振が家小告し。李雲と

商人小歩扮て。日く東京小馳て。大茶と買し。め。又樂和と湯隆とと去  
に東京小馳て。薛永と助けし。既し。各支度。時遷へ  
先奪て山と。りり

○長用時遷とて甲と盗む

楊林薛永李雲樂和湯隆亦五人の取次。遂に各山陣と離れて。  
あを。日又戴宗と下し。乃中に往來を。あ山のことを  
探聴し。めり。初又時遷の夜と日に。急で。日わ。東京小馳て  
旅布に。日。中ふ入て。金陰班の教師。徐寧が家と守  
て。茶後の門と。後への。一帯の。あ間の。樓  
あり。時遷良久。脚を。お定め。傍の家ふ入て。間。徐教師ハ  
家。に。主。定て。延に。て。あ。時。又。官て云。

初は何れの時回らざるや。さうが玄黄昏小ありし時。時遷是とて。且旅宿  
 に回り暗に時を窺て。再び徐寧が家の右に在りて徘徊し居る如に。そ  
 晩て。此夜はあつても月光もあつて。時遷は牆外の栢の樹の上より。  
 内の動静を窺ひし。徐寧も已にぬれり。とて。そらして。茶後の門を  
 突しぬ。時遷又樹の枝より。高牆の上に移り。後つの内小跳下。並に  
 厨の辺に忍び入て。遙に樓上を望むるに。徐寧妻に候て。云らるは。明の  
 帝龍符を小の幸なり。我妻へ又父の時分に。朝廷小伺候せり。  
 間下男下女に更の時分。小起して。用意とせよとて。遂小床の上  
 歩下られ。時遷是とて。中におひり。我宜しく又父の茶後に  
 下と下して。甲と盗んとして。身を縮て。花居ぬ。扱彼下男下女に  
 各房間小入て。歌り。漸く又の時分。徐寧先起て。下女

と起し。用意已に調り。如に。徐寧一人の僕と従。後つより出られむ。  
 下女の煙を提て。門辺まで送り。其の如に。時遷急に樓上小登り。並  
 ちに梁の上にお伏して。暫く伺ひ。下女又煙を吹滅て。歌られれば。時  
 遷於て梁の上にお伏し。甲匣を解きて。下りんとせり。如に。妻は書を  
 読て。下女を呼て。云らる。梁の上にお居る。何ぞや。時遷は。時  
 假て。叫び。下女。これとて。口を閉りて。云らる。夫人。何ぞ  
 叫ぶ。夢を覚め。おのれ。梁の上にお居る。何ぞ。時遷妻は。安心とて。已に  
 睡り。時遷は。甲匣を盗て。梁を降り。再び後つの内にお伏す。  
 暗に探聴。内にお静し。人音もなかり。時遷は。時遷は。時遷は。時遷は。  
 と推察して。走り。城外の東路を。馳り。天及。於又父の最  
 後。人音もなかり。静し。已に。又十里。馳り。東方。漸く。曉。見。とて。



つゝ如に前面より一人の漢子来る是れ刑神行を保戴宗の時辻これと  
見んて大不悦び共に傍に立倚て甲と盗を奪ふとせ渡りし戴宗是也  
咄て云らる我を甲と奪て先不悔ん汝の湯陰と若小初よりゆべ  
時辻は云お日と刑甲と先出し戴宗不存し戴宗これと知て時  
辻不列れ遂に梁山泊へ入り時辻は只空匣を荷て又東の路三十  
里をり行し如に果して湯陰に到り人なき如く盗の跡  
具し若られ湯陰が云汝今宵は此辺の旅宿をて一宿し刑は  
甲匣とある等が見る不不若盡し咽々又二三里をり馳出て我が  
来るを徐公時遷をて咄て我儀不日刑這辺の旅宿をて亦あり  
湯陰の城の辺不宿を借りて翌日不城中に能行ぬ扱徐寧  
が不盗人思ひ入て金の甲と徐をりて強劫し急に人と禁裏に

馳て徐寧に告んとられ湯陰に入るに能はるし湯陰まで来るよ  
徐寧已に悔りし湯陰と盗れは項侯は強りる不れ徐寧未だ  
夢もわすし大に疑さ我は甲先犯お借の宝物之我者不是と失  
んこと恐れ乃ら梁の上に見て他人不見えざりしに志は何等の  
賊来てこれと徐もやとして夜に背て眼も合せは憂へり翌日妻  
徐寧不奪て云らるは賊必定能甲の事と知りる志あり匡人  
を奪て奪しめ内人思自強劫して人不知る事あり却て不可  
んとて夫ぬひそら不商議して居る如に湯陰来て徐公と訪ふと報  
られ徐寧自らこれと迎へて客廳にありるに湯陰先云らるは素先父死去  
の後久し他は流落て這面も山東より来れり徐公のしと恙なき  
や徐寧が云我久し消息も尋せざりし不豆下来て我を訪らひぬ

後こゝにこれと感かん愧くわいを先まづ汝なの勞らうと休やすめ申まをして懇こんに餐あ食じぬ湯とう陸りく故こ云い  
徐寧じゆねい小回せうわいて云いるへ徐公何じよこうなにれ歎なげ及およ小憂せううありや徐寧じゆねいが云い我われ心こゝろの憂うれれ大おほい  
之これ。彫てう教けう紙し來きたて赤せき傳でんの宝たう物ぶつと竊ねすむぬ湯陸とうりくが云い何等なんとうの宝たう物ぶつや。徐寧じゆねい  
云い先せん祖そ代だい、お傳でんしる金かねの甲かうと竊ねすれおげれに我われ大おほこれと憂うれれ。湯陸とうりく  
云い昔むかし甲かう、昔むかし日ひ來きたもこれと見みせり。汝なに天下てんか小せう比ひ較けうるに宝たう物ぶつなりしに何なにれ  
の如ごとに當あたりて偷ちゆうまねおひしや。徐寧じゆねいが云い我われ若わかきに失うしなれんとぞ恐おそれし由よし皮かわ匣はちの  
内うちに入いれり。梁りやうの上うへに懸かるに何なんホの織オリりや。徐寧じゆねいは云い是こゝと知して偷ちゆうまねぬ。  
湯陸とうりくが云い皮匣かわはちハ何なん皮かわとゆて造つくてせや。徐寧じゆねいが云い紅こう羊やう皮ひとゆて  
造つくり。湯陸とうりく詐あやすて大おほ驚おどりて云い我われ今いま朔しやく城じやう外がひの村むら子こをて暗くらく憩あ息いき居い  
る如ごとに一人ひとりの漢かん子こ皮匣かわはちと希まれひあると見みて心中こゝろに怖おそれおそるに  
官くわんては皮匣かわはちハ何なんの用もちにやと云いれば彼か答こたへてこれハ赤せき甲かうと入いりしに今いま

只ただ衣服いふくと盛もはと所ところりぬ。恐おそれくは皮匣かわはちもわらん。我われ等ら急いそぎに逃にげ走はしるは、さ  
十分じふぶん後ごれまじ。徐寧じゆねい大おほ小せう慌わうんでいり。それ必かならず我われ皮匣かわはちを求もとむ。若わかし若わかし  
莫太もくたの福ふくを足たり下の湯とう陸りくと共ともに滅めつ介けいに託たくす。彼か村むら中なかに  
ひり。是こゝ一ひと射しやの客きゃく店てん小せう立たて湯陸とうりくを以もつて官くわんなるに紅こう羊やう皮ひの匣はちと携あひ  
子こと見みぬるにや。急いそぎて彫てう教けう一人ひとりの男おとこ紅こう羊やう皮ひの匣はちと携あひて村むら小せう驚おどりぬ。  
定さだめては辺へんに旅りよ者しやと需すむ。休やすみん。湯陸とうりくこれと夢ゆめて徐寧じゆねい小せう對たいして云いるに  
徐公じよこう夢ゆめ申まを果みして這こ人ひとなりしと徐寧じゆねい驚おどり上あげ。急いそぎに尋たずねんと。方かたくの  
客きゃくを尋たずねし如ごとく一ひと射しやの客きゃく店てんを以もつて云いるに。紅こう羊やう皮ひの匣はち新あたらしき旅りよ人ひとの  
彫てう教けう紙しが店てんに懸かる。今いま朔しやく城じやう外がひの村むら子こをて暗くらく憩あ息いき居い  
るに。湯陸とうりくこれと夢ゆめて徐寧じゆねいと僅わずかに。即すなはち尋たずねんと。息いきを  
後ごに追お追おす。湯陸とうりくこれと夢ゆめて徐寧じゆねいと僅わずかに。即すなはち尋たずねんと。息いきを  
後ごに追お追おす。湯陸とうりくこれと夢ゆめて徐寧じゆねいと僅わずかに。即すなはち尋たずねんと。息いきを

行隔八許...  
行隔八許...  
行隔八許...



時遷金甲と竊去る  
圖

徐寧金甲と竊まくる  
憂る図



徐寧  
金甲  
竊去る

本藤小匣と御して憩をりければ湯隆徐寧小若ていも古廟の前に歇  
 居る澤子別ち彼城より徐寧これと見る小果しては匣ありければ恰も死が  
 しく跑る終に時迂と歎へ汝汝城いんど大獲小我甲と恰めりや時迂が  
 云汝叫ぶとるん我は甲と恰しるも今匣の内より汝をいんとん  
 女として匣と扱てこれとんまらね甲はもあざりしと徐寧大ふおつて云  
 汝死滅甲いづれの死なきぬやや時迂が云まの張一と申さうして泰安  
 州の民さう一人の商人我と教で云らる老神經畧相公徐寧が城に  
 不持しる金の甲と遊ぶ思ひゆ人も徐寧肯て賣ら汝り是と盗きて  
 来くば一万貫とまふべしと云し我余又李ことりふとて傳ふてあ人  
 日ドく公の敵に思ひ入て殺にけ甲と恰しるもまを夜梁より落る  
 脚と傷ひたせりと叶らに依て先甲と李と小持せて商客の庵に墜

唯を匣作とぬりぬ我と扱て友府小折へるが我死すともも還はは  
 又我と死して友府に折へるが我公共にゆて再び甲と還し  
 せうん徐寧これとて只顧躊躇交せざりし如に湯隆が云徐公何ぞ  
 躊躇しぬや我ら友人彼と監押して弛け匣し甲とえ渡せし  
 友甲多くんば其如の友府に從て交りて乞ん小何の不可有とらわん  
 徐寧主事小日ト刻時迂と監押して去に東と屋で弛けそ夜ハ  
 旅布と求て三人はく歇るる徐寧初ハ時迂と緊しるもりしうた時  
 迂詐て御と傷る斜ふりてるし依とれこそ果敢えざりしとん  
 徐寧漸と安んじぬるあぬ

湯隆徐寧と鎌し山に上りしむ  
 斯て乃と往と三日ふりしに傍の小徑より二三疋の驛馬一疋の虚車



とぞの。冥前小わて徐寧と迎へらるに。徐寧漸く蒙汗索の毒索碍て  
眼を閉ざるを以て法豪傑と見て大小孩。劉湯隆小同て云汝ハ何  
ゆゑ我を嫌しては知に勢へ来るや。湯隆云徐公宣しく我が云と  
少く我はひひ晁宋あ公豪傑と招きあふとと夢及び一知に孝ひ  
或崗法として黒旗風李達小遠。堯に引れて南山疎小加りぬ。今呼  
延灼小連還る軍を用うれ。親方大に利を失ひ再び款を破らん計  
あり。これ小川。我が謙遜の法を執らる。これを使ふ志ハ只徐  
公のこゝに小ひ度計を用ひ。時迂に公の宝物なる甲と盗し先慢りに  
徐公を嫌して山疎に誘引せり。伏して殺し我罪を免し。一臂  
の力と施し更強く山陣の法豪傑皆くは恩を感激の心。徐寧  
これと夢て。只惘然と呆れらる。如に宋江近くをんで告る。ハ宋晁天

王と共に皆く高疎小居候し。あつ朝廷の涉敵先で待てる。我嘗  
於て公を辱し心に報えんと欲し毛既も材を食り殺せ好む。不  
仁不義のこゝと行はれぬ。徐公明く小是と察し一ひひ。  
何じく天小替て及せりひ。友人林冲ハ宋宋旧友なりし。公懇に誘て  
云来已に公を尉に世と過られ。今公に在て綱を脱る。徐公放て山疎に  
あり。我は公旧友の情と感ずべし。徐寧が云来今後悔するわね  
も。只招く。妻子。於て友府の橋とわす。晁宋齊しく云らるは。  
徐公必はこれと憂へ。あふと勿れ。近くを族と山疎に邀へ。一処に  
立し。あをす。先宣しく。休息し。あとして。種く。物品ときて。容態と  
尋し。又戴宗湯隆と宋系に馳て徐寧が妻子一家とを来り。わ。已に  
十日と経る。如に楊林ハ潁州より彭玘が妻子と来て。四り。薛永ハ東京

とうり凌振が妻子とて多く回り。李雲も同じく。東京より又車の火薬を買  
 たり。又数日たれば。戴宗湯隆も徐寧が妻子とて多く回り。徐寧  
 夫婦對面して。まを収び守を警さる。徐寧又湯隆小對して云る  
 妻子已に山陣にあり。上の我が今令く安んず。只惜むら。我甲の  
 何れの如に失ひぬ。湯隆笑て云甲のこのさ。我甲の杖を以て收  
 拾て山陣に送りぬ。ぬれぬと安んず。又と甲と皮匣に收め。并に取れぬ  
 一朶も紛失多く。徐寧に還し。見せしめて。徐寧の再び東京  
 に販を乞ふ。且彭玘凌振も各一族の身辺にあり。め各心と安ん  
 皆梁山泊小止りぬ。徐寧を宋に湯隆に命じ。多く鈎鎌鎗と送り  
 出さしめ。見宋兵用。公孫勝を介法。取聚義廳に集。徐寧  
 と徐寧鈎鎌鎗と法軍小教へし。り。以後の利ある。次巻をいんぬ。

孔明小初

旅客の樂和と。る。車使の排り。且又討討姓名と。張一と云べ。通俗を義水  
 洙。張二と書と。見張之。

新編水滸畫傳卷之四十七畢

